

〔曲名〕 Serenata

セレナータ

〔曲種〕

〔作曲者〕 Giorgio Miceli

ジョルジョ ミチェリ

〔整曲〕 中野二郎

Jiro Nakano

1870年（マンドリン音楽勃興期）イタリアのエマヌエレ殿下（後の三世）の御生誕を寿ぐ為にナポリに大博覧会が開かれた。

この殿下の母君は自らもマンドリンを修得されたマルゲリータ皇后であるが、この機会に初めて百人以上の奏者を擁する大マンドリンオーケストラが、

ジョルジョ・ミチェリの作曲になるセレナータを演奏し、之がその後も屢々続演されてマンドリン音楽の発展に大きな影響を齎（もたら）したと云う。

勿論私はその時点で書き下ろされたマンドリン合奏曲と信じて、イタリアの凡ゆる出版社の出版目録を調べても見あたらないのである。

ミチェリ（1836-1895）は十九世紀後期パレルモの音楽学校教授であり、多くのオペラも書いて居り、1870年と云えばムニエルもまだ十一才でナポリでこの演奏をきいたであろうと思うと、愈々（いよいよ）その曲を見たくなるのは人情である。

再度来朝したシエナのアルベルト・ボッチ氏所蔵譜の中に之があり、懇請してそのコピーを得ることが出来た。

見るとリコルディの出版で、編成はクワルテット・ロマンティコ（二つのマンドリン、マンドラ、ギター）で、

フェルディナンド・フランチアの編曲なのである。

フランチアは当時ジェノヴァに住んでいた云わばマンドリンの専門家で、思うに当時まだ組織だったマンドリン合奏は行われていないので、

この作業は手慣れたフランチアの手になねられたのであろう。

現代の用に供するように多少の手を加えたので整曲とした。

マンドリン古典合奏曲集27集より